

大和市市民環境調査事業

ツバメ情報調査

実施報告書

平成28年度



目次

1 はじめに	……1ページ
2 講習会の実施	……1ページ
3 調査方法	……2ページ
4 調査結果	……3ページ
5 まとめ	……6ページ

1 はじめに

ツバメは1984年～2001年に環境省が実施した、「身近な生き物調査」において、環境指標種に指定され、調査されてきました。近年、ツバメは減少傾向にあると言われており、その背景には、農業の衰退によるエサ場となる水田や耕作地の減少や、巣作りに適した日本家屋の減少などがあると考えられています。

そこで、大和市内でのツバメの生息状況を知ること、また、ツバメの生息状況と周辺環境との関連について考察するため、「ツバメ情報調査」を開始しました。

「ツバメ情報調査」は、市民の皆様にご協力いただき調査を行う、市民環境調査の一環として行っています。

2 講習会の実施

日時 : 平成28年4月17日(日) 13時00分～15時00分
場所 : 大和市自然観察センター・しらかしのいえ
参加者 : 8名

市民環境調査員として調査にご協力いただくにあたり、ツバメに関する基礎知識を学んでいただくことを目的として、大和市自然観察センター及び日本野鳥の会の協力のもと、講習会を実施しました。

講習会では、大和市で見られるツバメやその見分け方、日々の生活スタイル、ツバメを取り巻く環境の変化について等の学習に加え、ツバメの観察報告の方法についての講義を行いました。

時間	内容	講師
13:10～13:40	・ツバメの生態について	自然観察センター・しらかしのいえ 秋山 博 氏
13:40～14:10	・ツバメの現状について ・ツバメの子育て状況調査参加方法について	日本野鳥の会 荒 哲平 氏
14:10～14:20	・調査員証の授与	
14:20～15:00	・フィールドワーク 相模大塚駅周辺にて実際にツバメの巣を観察	

講習会中の風景…

- ツバメの日常について



- ツバメを取り巻く環境の変化について



- 実際にツバメの巣を観察



3 調査方法

「市民環境調査員」の方に、市内に営巣されているツバメの巣を発見し、子育て状況を調査していただきます。

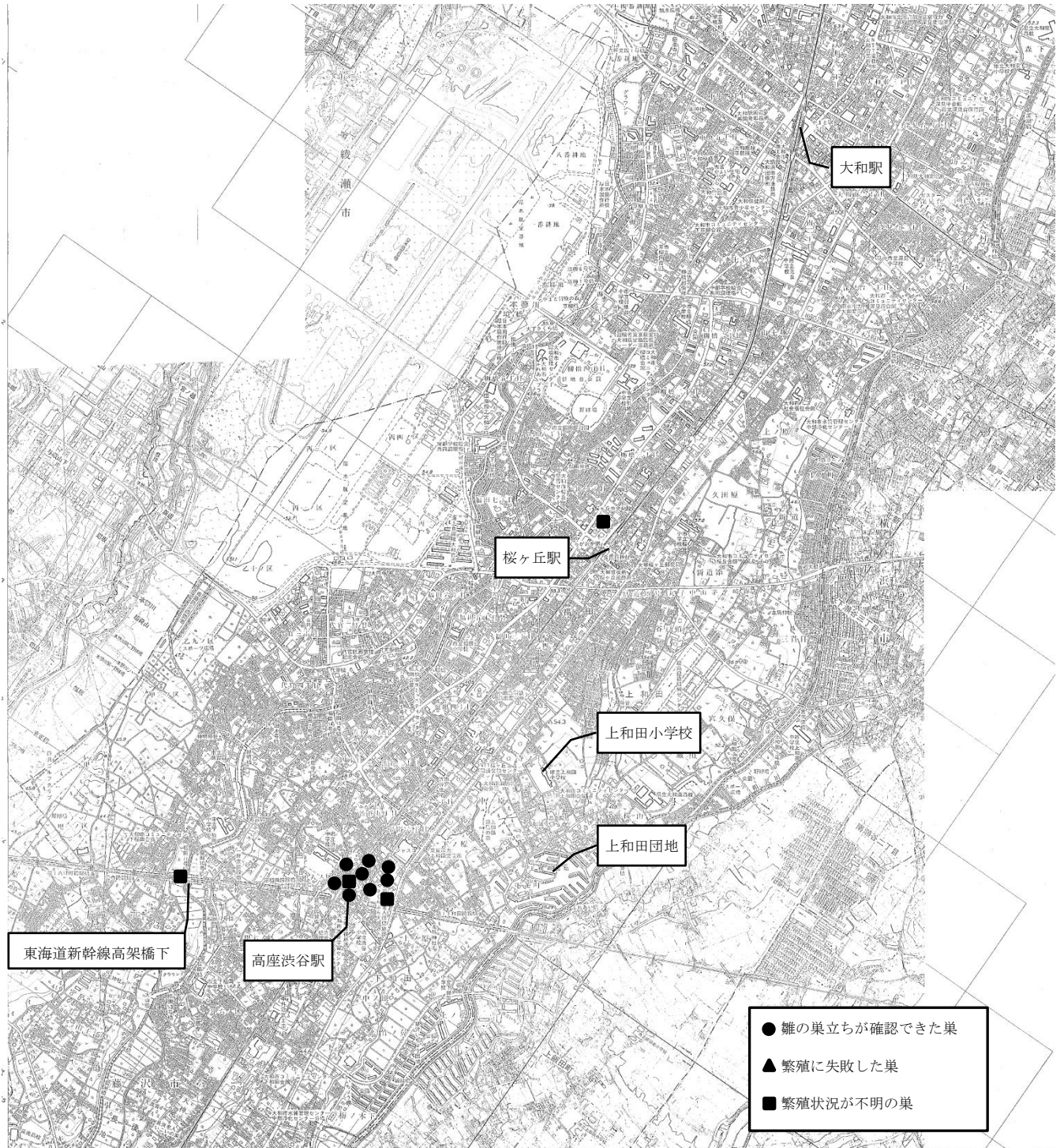
調査報告は、巣の発見場所や子育ての状況、その他気づいたことなどを、日本野鳥の会で運営する「ツバメの子育て状況調査」のホームページへ入力することにより行います。このホームページでは、大和市内だけでなく、日本全国で調査されたツバメの巣についての情報を閲覧することができます。

調査期間については、講習会の翌日（4月18日）から9月30日までとしました。

【参考】ツバメの子育て状況調査ホームページ：<http://tsubame.torimikke.net/>

2) 中部～南部地域での営巣状況

中部～南部地域では、高座渋谷駅に 10 巣、東海道新幹線高架橋下に 1 巣、及び、桜ヶ丘駅周辺に 1 巣の計 12 巣の営巣がみられました。大和駅周辺での営巣は確認できませんでした。



3) 繁殖状況について

- 雛の巣立ちが確認できた巣（地図上●標記の巣）

	巣立った雛の数	備考
中央林間駅周辺の巣1	4羽	
中央林間駅周辺の巣2	3羽	
つきみ野駅付近の巣1	9羽	同じ巣で2回繁殖（5羽：4羽）
つきみ野駅付近の巣2	4羽	
つきみ野駅付近の巣3	3羽	
下鶴間周辺の巣1	9羽	同じ巣で2回繁殖（4羽：5羽）
下鶴間周辺の巣2	7羽	同じ巣で2回繁殖（3羽：4羽）
下鶴間周辺の巣3	5羽	
下鶴間周辺の巣4	4羽	
下鶴間周辺の巣5	8羽	同じ巣で2回繁殖（5羽：3羽）
下鶴間周辺の巣6	2羽	
相模大塚駅周辺の巣	2羽	
高座渋谷駅周辺の巣1	4羽	
高座渋谷駅周辺の巣2	4羽	
高座渋谷駅周辺の巣3	4羽	
高座渋谷駅周辺の巣4	4羽	
高座渋谷駅周辺の巣5	4羽	
高座渋谷駅周辺の巣6	5羽	
高座渋谷駅周辺の巣7	4羽	
高座渋谷駅構内	5羽	
合計	20 巣 94 羽	

巣立った雛は最小2羽、最大5羽が観測され、合計94羽の雛が巣立ちました。1巣あたりで巣立った雛の平均値は、4.7羽となりました。また、1番仔平均は4羽、2番仔平均も4羽となりました。

※1 巣あたりで巣立った雛の平均値＝巣立った雛の合計（94）÷雛が巣立った巣（20）の合計（のべ数）
* 巣立った雛の数が不明だった巣は除外しました。

- 繁殖に失敗した巣（地図上▲標記の巣）

中央林間駅周辺の巣の1つは、巣が壊されてしまったようです。原因は不明です。

- 繁殖状況が不明の巣（地図上■標記の巣）

親鳥による巣作りは確認していますが、繁殖状況については不明となっている巣です。

5 まとめ

年を追うごとに観察ポイントが増えてきて、巣立ちヒナの観測数が 51 羽、62 羽ときて、今年は 94 羽になりました。また、報告された巣の数は 27 巣になりました。

日本野鳥の会の「ツバメの子育て状況調査」の 2013 年から 2015 年の結果を見ると、1 巣あたりのヒナの数に郊外や農村部での平均は約 4.3 羽、都市部では 3.9 羽とされています。大和市の今年のまとめでは、1 番仔の平均は 4 羽となっていて、全国平均の都市部よりは多い結果となっています。しかし、野鳥の生存率の研究事例からの試算では、親鳥の翌年の帰還率が 50%、ヒナは 30%と仮定され、計算上は（親： $2 \times 0.5 = 1.0$ 、ヒナ： $4 \times 0.3 = 1.2$ ）でかろうじて 2 以上になっている状態です。これがヒナ 3 羽に落ちると 2 以下になってしまいます。2 以下になると個体数は減少していく状態です。2 番仔まで計算すると 2.4 となりますが、これでも安定して増加しているとはいえない状態です。

昨年の報告書で、鶴間駅近くのスーパーマーケットの巣のまわりに鎖が下げられて、子育てができなかったとしましたが、今年はその鎖が逆にカラスよけになって、無事に子育てができたようです。講習会の最後に観察した相模大塚駅近くの巣では、昨年の巣の壊れた部分を修復したところが高くなりすぎていたので心配していましたが、やはり、営巣がかなり遅れてしまいました。こちらでも無事にヒナが巣立ちました。全国調査の結果を見ると、子育て失敗の原因として挙げられている、人が巣を落とした、あるいは作らせなかったという報告が市内からはなかったことは一安心です。

用事があって、JR 横浜線の中山駅に降りることがあり、駅前に出たところでツバメの子育ての写真が貼られていて、ツバメからのメッセージが書かれていました。「巣立てました」と大きく書かれていて、「見守って頂き、ありがとうございました_(・_・)_来年も来たら宜しくね\(^o^)/」と 4 羽のヒナと 1 羽の親がお礼を言っている張り紙でした。中央高速道路の上り線諏訪湖のサービスエリアには「ご注意ください。ツバメのトイレです」と張り紙されてダンボールが置かれていました。心が暖かくなる情景でした。

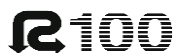
ツバメの子育て環境に関しての野鳥の会の分析では一番重要なのが河川や池という水環境で、次いで公園や裸地となっています。えさになる虫たちが多く生息し、営巣するのに必要な土が手に入ることが絶対条件になっているのです。

ツバメの行動半径は諸説ありますが、育児中はほんの半径 200m くらいようです。これはえさを運ぶ量からも納得できます。ツバメの親は 1 時間に 40~50 回えさを運びます。日中の行動時間は朝 6 時から夕方 7 時の 13 時間、1 回に 1 匹ずつとして 1 日に約 520 匹から 650 匹の虫を運ぶ計算です。1 巣に 5 羽のヒナがいると、1 羽には 104 匹から 130 匹の虫が与えられていることとなります。これだけの数を運ぶとなるとあまり遠方まで出かけることはできないでしょう。

来年の調査に向けて、どこかの壁に巣が残っていないか注意を続けてください。

平成28年度 大和市市民環境調査事業「ツバメ情報調査」実施報告書

- 協力 公益財団法人 日本野鳥の会
公益財団法人 大和市スポーツ・よか・みどり財団 大和市自然観察センター
- 編集 大和市 環境農政部環境総務課
- 発行 大和市
大和市下鶴間一丁目1番1号
TEL 046-263-1111 (代表)



古紙配合率100%
白色度70%再生紙を使用しています